

## 小笠・掛川地区 第3回定例研 紙上発表資料への感想

### 1 【吃音】 静岡市立番町小学校 新井忍 先生

- ・吃音指導は悩むことも多いですが、吃音を持つ仲間と関わり合いながら、成長している様子や具体的な支援方法が参考になりました。こどもの教室経験年数によって、吃音の受け止め方に違いがあったことを知り、ことばの教室での指導の意義を改めて感じました。
- ・指導開始前に、おおまかな年間指導計画を立てていることが、一年間の見通しとして大変役立っていると感じました。振り返りシートへの書き込み指導もされているため、子どもたちの気持ちの変容が分かったと思います。

### 2 【言語発達遅滞】 浜松市立佐藤小学校 松井靖明 先生

- ・困り感が似ている児童はたくさんいます。でも、一人一人困り感の原因が違うことを、丁寧なアセスメントにより明らかにしています。アセスメントがしっかりされていれば、支援目標や支援方法が導きやすいです。すばらしいなあと思います。すばらしいなあと思います。  
「知能検査を最初から行えばよいとも考えられるが、私はいきなり知能検査を行うのではなく、十分に子どもの実態を把握した後、その子の特性や困り感の原因を探り、支援方法を考えるためのツールとして行うべきだと考える」という記述がありますが、その通りだと思います。自分が検査者をお願いするとき、十分な実態、特性、困り感が伝わるようにしてからお願いすべきなのだと改めて思いました。
- ・知能検査、発達検査から見えてくる子どもの姿もあるが、普段の子どもの様子を知ることが大切だと感じました。アセスメントをしっかりすることで、支援方法が明確になり、子どもの成長につながることを改めて感じました。
- ・(アセスメントを大切にしたい支援計画の作成) アセスメントを数種行い、自校の様子もつかみ、実態を分析し指導に生かしている。ここまで丁寧に分析されていることに感銘しました。幼児相手ですが、PVT-R、言語発達診断検査、新版K式発達検査、WPPSI検査はとっています。実態把握ができるので、園で支援に活用してもらったり、就学支援に生かしたりしています。課題は、検査器具が古いことです。高価なので何年も要求している有様です。また、検査結果の数値のみが生かされてしまうことが課題です。
- ・アセスメントの重要性がよく理解できました。同じ主訴を持つ児童についての細かい違いを見いだすための検査や調査の数が多いことにも驚きました。似ている中にある違いを見つける大変さが常々悩みの一つでした。これほど詳しく丁寧にアセスメントについてまとめていただいている資料を見たのは初めてでしたので、大変勉強になりました。

- ・丁寧なアセスメントに感服しました。個々までの見立てと指導をされている言語の方の実践はあまり目にしたことがありません。最近、言語・発達の壁はどんどんなくなってきていると感じるので、全ての担当が力をつけるべき点だと教えていただきました。

### 3 【構音】 富士市立富士第一小学校 佐野卓信 先生

- ・サ行音の構音指導は、実態把握をし、指導計画を立て、指導の実践振り返りと分かりやすく書かれていて、自分なりにやっていたサ行指導が明確化され、勉強になりました。指導方法を文章で表現する大切さも分かりました。
- ・指導児童の変化として、トークンを必要としなくなり、子ども自身の達成感が一番大切であるという視点に共感しました。
- ・本教室(幼児)では5、6月頃にサ行→タ行、ザ行→ダ行の子は年長の4月から通級し、ほとんどが改善して就学している。どの段階、どの年齢で支援していくのが最善なのだろうか。

### 4 【発達】 藤枝市立西益津小学校 永谷久美 先生

- ・藤枝市に発達通級が3つあり、個別指導通級1つ、グループ指導通級2つという記述がありました。グループ通級では二人の指導者が担当しているとのこと、うらやましいと感じました。御前崎市では、2つの発達通級がありますが、どちらも担当は一人なので、個別指導が中心です。ですが、3年間を見通した指導目標、指導計画や学習内容一覧などは、個別指導にも生かせるものがあると思いました。また、「記録を数値化して残す」ということの大切さを私も感じています。子どもが、「自己の成長」を実感できるからです。丁寧な実践報告ありがとうございました。
- ・グループで指導を行い、自分だけではないことや、自分の思いをメンバーにぶつけることができたことは、心の支えになっていたのではないのでしょうか。幼児では、自発語が多く出る環境作りと、自己の力で理解する、できる事を増やすことを、保護者と共に行うよう勧めています。
- ・自分自身を見つめ、心の中にある自分の気持ちに気づき、グループの友達や先生と話す中で自然に自分を受け止めていける良い指導だと思いました。ことばの教室でスキルを身につけることも大切なことだと思います。そして、プラス「仲間がいる」「わかってくれる人がいる」という心があたまの場所だと思いました。私も子どもも親も安心して来れる場所になるように努めていきたいと思っています。
- ・Aさんが書いた作文の内容の深さや文や文字の丁寧さに、学びの大きさを感じました。成長の大きさが伝わります。こつこつ頑張れば、できるようになる、そうやればいいんだということを実感として学びとっています。何かができるようになったということも大切ですが、このような心の成長はこれからの生きる力の原動力となることでしょう。本当の意味の『自信』に繋げることができたと思います。同じ課題を繰り返し行う

ことで安心してチャレンジ・スキルアップというぶれない指導や苦しい時も乗り越えさせる等の手立てが A さんの自信になったと思います。ありがとうございました。大変参考になりました。

- ・同じ課題を続け、目標を分かりやすく継続していることと、グループのメンバーも安心して関われる児童にしていることが良かった。「話す」ことは、目標が高いので筋道立て訓練することが効果的なのではないでしょうか。本教室(幼児)では、個の指導で担当との関わり、向き合い方を高めることで、自発語を誘い出し、安心して関われることができるようになると小グループ(2~4人)を組むように段階立てています。
- ・主訴が明確で、シンプルであることが良いと思いました。目当ても、子どもにとってスモールステップとなっていることが、無理のない継続的指導の基礎となっていると感じます。また、スピーチに向けた3つのステップが課題クリアの大きな後ろ盾となっていると感じました。3年時から5年時までの課題の繰り返しにより、確実にスピーチ力をつけることができているということが資料からよく伝わってきました。
- ・長期にわたる見通しある実践=自分研究になっていて、通級した成果を大変感じました。通級で何をやるかは、何年経験してもいつもその瞬間まで悩みます。筋の通った指導に頭が下がります。また、中学年に一度渋ったというお話もとても同感します。藤枝市は組織がしっかりしていて学習会もたくさんされ、個に力があってうらやましいです。
- ・初めての発達通級担当です。主訴に対して「何を育てたらよいか。そのためにどんな課題がよいのか」という一番大事なことを自力で見極める力が不足する中で、先輩から教えてもらいなんとか過ごした1年でした。本実践から、そのことがとても非常に参考になりました。また、3年間を見通した実践に感服しました。自分も早くそうした力をつけたいと思いました。